◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

『友』インターネット速報　　2007年10月23日　　No.308

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

それでも経口ポリオワクチンは、ポリオ撲滅への手段

　世界保健機関（ＷＨＯ）の専門家によると、北ナイジェリアでのワクチンによるポリオが発症したのは、経口ワクチンに使われる毒性を弱めたウイルスが突然変異により子どもたちに感染し、まひを起こさせるという極めてごくまれなケースです。今回のような発症は、免疫をもつ子どもたちの割合が低く、衛生的でない地域で起こりやすいといわれています。

　「このまん延は、ナイジェリアのこの地域でのワクチン投与の低さを表しています」と話すのは、WHO感染症局長のデビッド・ヘイマン博士です。彼は、感染した子どものうち、60人は免疫がまるでなかったか、きちんとワクチンが作用していなかったと指摘しています。また、ロータリー財団管理委員長であり、国際ポリオ・プラス委員長であるロバートＳ.スコット氏は、このように話しています。「唯一の解決策は、ナイジェリアのすべての子どもたちに免疫をもたせるよう活動を広めていくことです。ワクチンの安全性に疑問を感じ、子どもをワクチンを投与する場所へ連れて行かない親がいたら残念なことです。経口ワクチンは、野生ポリオウイルスという私たちにとって本当の敵に対する最も効果的な武器なのです」

　ＷＨＯによると、腸の中で高い免疫力をすばやくもたらし、熱帯地方の途上国でのポリオの感染に歯止めをきかせるのは、経口ワクチンだけです。ナイジェリアは、野生ポリオウイルスが残る4か国のうちの1つです。2006年8月に発症が確認されてから、4回の大規模な免疫キャンペーンが行われましたが、今後も実施される予定です。

「ロータリージャパン」ホームページ情報

『ロータリーの友』に掲載されている、ウィルフリッドＪ．ウィルキンソン国際ロータリー会長のメッセージを原文で読んでみませんか。「ロータリージャパン」の日本語ホームページ

www.rotary.or.jp/contents.html.

の左上の「国際ロータリー会長ウィルフリッドＪ．ウィルキンソン」をクリックしてください。英文を掲載しています。

-

発行　ロータリーの友事務所
ホームページ　http://www.rotary.or.jp
Ｅメール：ホームページについては／web@rotary-no-tomo.jp
　　編集については／hensyu@rotary-no-tomo.jp

-